

『余部鉄橋列車転落事故』および、『福知山線列車事故』の現地踏査を行ってきました！

1. 余部鉄橋列車転落事故

5月18日～19日、輸送サービス労組大宮地本として『余部鉄橋列車転落事故』および『福知山線列車事故』の現地踏査を開催しました。

1986年（昭和61年）12月28日午後1時25分頃、JR山陰本線の余部鉄橋を走行中であつた回送中のお座敷列車「みやび」の客車7両が最大風速約33m/sの突風にあおられ、約41m下に転落し、水産加工場と民家に直撃し6名の尊い命が失われました。

事故の調査では、指令室では2度風速計の警報が鳴動するも列車の停止を指示できなかった事、一部の風速計が故障していた事も明らかになりました。またこの事故により、列車を停止させる規定を守らなかったとして、指令員3名が有罪判決を受けました。



この悲惨な事故を契機に風速の運行規制は20m/sへ変更されましたが、列車運行の安全性と定時性の確保が大きな課題となりました。現在は新余部橋梁が設置され、風速30m/sでの運行が可能となり、事故を風化させないため展望施設「空の駅」として旧鉄橋の橋脚の一部が活用されています。

そして列車事故現場には、犠牲者の慰霊と事故が二度と起こることのないように願いが込められ、聖観世音菩薩が安置されています。



私たちが従事している業務は、判断の誤りによって「命」や「人生」を一瞬で奪ってしまう事を改めて認識しました。